

職員のみなさまへ 6月に原稿募集を締め切った沖縄病院医学雑誌、ようやく各部署へお届けすることができそうです。

以下編集後記より第42巻の紹介です。

#### 編集後記

沖縄病院医学雑誌第42巻を発刊します。今年も16編（原著9報、症例報告4、目で見ると多くの寄稿をいただきました。大湾らは昨年の報告に続き当院で入院治療したCOVID19第6波を中心とした報告で、変異株による臨床背景・症状の違いや、ワクチン接種の普及に伴う治療方法の変化を報告しています。既報と読み比べ2年間の変化に驚かされるとともに、今後の見通しの難しさが推測されます。症例報告で国吉らは認知症をもつCOVID-19患者との取り組みを報告し、高齢者施設への広がりなど、まさに今問題となっている高齢感染者への関わり方について考察しています。ほかに原著で医局からは沖縄県の食生活変遷の問題点や、AYA世代のがん患者の問題点の報告があります。川畑らは女性医師支援の課題を検討し1年半後には実施される「医師の働き方改革」に関わる提言をされております。薬剤部からは外来がん化学療法の高質化を目指した病院薬剤師と保険薬局薬剤師の情報連携の取り組みについて、看護部からは院内教育、研修をととした質の高い看護提供を目指した取り組みを報告しています。症例報告、目で見ると胸部疾患でも興味深い報告があります。本誌編集でCOVID-19第7波の真ただ中です。重症化率は下がったとはいえ、感染者絶対数の増加そして職員の感染による医療提供の制限と悪循環が続き、不満・不公平感を抱えながらも各々の業務にあたる職員の姿には頭が下がるとともに状況を危惧しています。即策は思いつきませんが少なくとも批判や非難することなく、しっかり議論し協力しアイデアをだす姿勢、そして現状を記録し続けることが大切だと考えています。医療界に関わる人間にはそれができると信じています。

2022年 盛夏 河崎英範